

# 「Contemplation 6」

～生と死～

マタイ10:38～42

## 生と死

私達は自らに死ななければなりません。自分の偽りに死ななければなりません。毎晩考えてみて下さい。自分は今生きていないか。では生きるとはなんなのでしょうか。「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリストイエスにある永遠の命です。(ローマ6:23)」私達は心の内側に罪をもっていて死が恐ろしく不安なのです。だから私達は死に向かって進んでいて死が追って来ると思って恐れています。クリスチャンは死に対する処理をうけたのです。あなたがおかした過去の全ての罪はキリストイエスが十字架の上で背負われたのです。安全に生きなければならぬと不安は無くなるのです。安心して生きたいと思わなくてすむんです。なぜなら、平安があるからです。安心と安全と平安は違います。

## ①手放す決断

自らの命を自らで救おうとすると、それは失われていきます。私達は絶えず人のせいにする。人のせいにすると思つて。この生き方は私達の人生の落とし穴です。そして、本当の姿が失われていっています。人のせいにする事、自己中心に生きる事、自分の人生を守る事が心の中心になってきています。裏切られるから人に裏切られる前に自らを守る。それが今の日本の現状です。私達はあなたの心の中であなたを守ろうとする自分を手放す決断をしなければいけません。あなたは自分の人生を守れますか？家族を守れますか？自分自身の家族を守ると言いながら人のせいにして生きているのにもかかわらず、あなたは守れるのでしょうか？自分と戦う所にしがみついていると自らを失い大切なものを失ってしまう。自分を守ろうとすることに死ななければなりません。あなたが今自らを守るために頑張っているならやねるべきです。是非、手放す決断をしてください。自らで自らを得ようとするのと辞める決断を。上杉謙信が何故戦いに行くものが自らを救おうとする者が死んで、自らに死ぬと覚悟したものが生きるのかと言った事がわかりますか？死ぬという恐怖に勝たない限り私達は真っすぐに闘えませんが、恐れている以上私たちの人生は生きられない。自分を救おうとして自分と向き合おうとしていないからです。神さまはあなたを救うと言ったのです、だから、全てをゆだねて、向き合いこの事で死ぬと覚悟を決めて決断をして下さい。私はこの道を命を懸けて生きると決めなければなりません。

## ②散らすものよアンパンマン

聖書は「散らす」という言葉の意味をイエスキリストの十字架の表現で「散らす」と伝えています。後は「与える」と書いています。散らすものにならなければなりません。自分の為に蓄えて、自分の為に備えて、自分の為に生きるのですか？神さまはあなたの人生が豊かなものとなる為に散らしたいのです。その方法は「種を撒け」と言いました。自分を散らして誰かの為に撒きなさい。すると溢れるばかりの豊かさが、あなたが豊かになりたいと思う幸せになりたいと願うのになぜ自分の為に蓄えるのです

か？撒かずにしてどうやって刈り取るのか？本当に正しいものに生きるのならそれには沢山の実が残ります。自分の家族の為、自分の為にだけ、自分の将来の為にだけ、自分の人生を使って生きると結果あなたを失うことになります。イエスキリストは私が背負うと言ったのです。死ななければいけないのは死ぬという事ではなく、死のうとする決断です。自分を得ようとしなさい、決めなければいけません。イエスキリストはあなたの為に死を決断しそれを行つたのですから。私は死ぬんだと決意し続けこの道に生きると信じなければいけません。疑っているうちには自分を守るだけで実を結ぶことはありません。あなたが自分に死ねば誰かが助かり、死のうとすればよいのです。聖書は「死ね」と言っているのではなく、死ぬことを決意せよと言っています。すると私達は生涯をかけて神の方法で偽りの自分に死ぬるのです。だから散らさなければなりません。

## ③不安から平安

安心と安全は裏切られます。平安はたとえ裏切られても問題が起きても平安だけは揺るがすことができず。平安が心の中心にあるのですから。周りに起きた現状に右往左往しないのです。イエスキリストは十字架にかかって最後平安があなたにあるように伝えたのか自らの命をおそれている人は不安です。ところが自らの命を捨てた人はもう失うものはありません。なので何が起きても安心です。平安があるから安心なのです。失うものを持っているから失いたくないから、不安なのです。しかしそれを捨てた時からそこに立つことができるのです。人が幸せに生きるのには①感謝②与えた人③ユーモアな人。平安を得て下さい。その平安は十字架から得ます。彼は平安を残します。世が与えるものとは違う平安を掴むために自分に死んでください。あなたの心に不安や恐れがある限り本当の平安は訪れません。それを捨てない限りは得られません。死と向き合ったとき決意したときに何も奪う事はない力として平安は与えられるのです。そして生と死について黙想してほしいのです。死と向き合った人は強いのです。だから、死と向き合わなければなりません。死ぬことも益である、生きることもキリストであると、聖書に書かれています。もし私たちが自らを死なすと決意すればあなたの人生は変わるのです。イエスキリストが十字架に死んだのはあなたが幸せになる為です。幸せになる方法は自分に死ぬ以外用意されていません。「私が道であり、真理であり、命です。私を通さなければ救われません。」死を覚悟した人がキリストと共に十字架にかかり自分に死ぬんだと決断した人が唯一救われるのです。決断して自分に死ぬから救われるのです。だから変わる事が出来豊かになるのです。私が弱い時にあなたは強い。無い時に何故豊かだと言えるのですか？そこを抜け出す時に与えられるからです。

(要約者:富岡 美千男)

(11月27日)